



# 学校だより

10月号  
横浜市立桜台小学校  
令和5年9月29日発行



HPはこちらから

## 教科担任制がもたらす「よさ」

高学年チーム・マネジャー 栗田 諭

ようやく朝夕が涼しくなってきました。急に涼しくなってくると、なかなか気候の変化に体が順応せず、体調を崩してしまうことが多い時期でもあります。新型コロナウイルスに加え、インフルエンザも流行の兆しがあり、なお一層体調管理が大切になっています。ご家庭でも引き続き、子どもたちの体調管理をよろしくお願いいたします。

さて、私は校内で3・4年生の算数少人数と、6年生の体育を担当しています。6年生の体育は「教科担任制」の一環で、6年生の担任で担当している理科・社会・外国語、専科として扱っている音楽・図工・家庭科と併せて7教科を分担して教えています。

横浜市では以前から教科担任制を取り入れている学校が多くありますが、全国的にはそこまで多くはありませんでした。文部科学省は2022年度から教科担任制の推進のために、4年間かけて毎年全国で950人教員を増員する方針を示し、24年度は25年度分を前倒して、1900人の教員を増員するそうです。また、優先的に取り入れるべきは、高学年の外国語、理科、算数、体育と示されています。

教科担任制のよさとはどんなところにあるのでしょうか。

まず、教師の専門性を生かせたり、一つの教科を深く教えられたりする点です。子どもたちに身に付けてほしい内容をただ教えるだけでなく、様々な切り口から子どもたちが興味をもてるようにし、より深く各教科について学べるようにできるのではないかと考えます。体育を教えていると、毎時間子どもたちの様子を見ながら発見があり、それを次のクラスへとつないでいき、全体のレベルアップにつながっています。

次に、担任だけではなく学年全員の教員で、全員の子どもたちを見られることです。担任だけではない別の視点で子どもたちを見ることで、子どもたちの様々なよさに気付いたり、普段見つけられない変化を見つけられたりします。子どもたちも気軽に話せる先生が増えることで、何かあったときにも相談しやすい環境ができています。放課後子どもたちの情報を担任間で話すときも、顔をすぐ思い浮かべながら話ができます。つまり、児童指導の面から見てもとても有効なのです。

さらに、中学校との授業スタイルのギャップを埋めることです。中学校は完全に教科担任の形をとっているため、急にやり方が変わって戸惑うのではなく、少しずつ教科担任のスタイルに慣れていくことで、中学校生活に順応しやすくなります。

本校では3年生から一部教科担任制を取り入れています。学年によって教科担任制で扱っている教科は少しずつ違いますが、各担当が工夫して授業を行っています。多くの教科について授業準備をするよりも、一つの教科により時間をかけて準備することもできています。

また、子どもたちの相談しやすい環境という点では、4月に6年生を対象に行われた、全国学力・学習状況調査において、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に、「当てはまる」と答えた子が、全国平均より7.5%高い結果が見られました。教科担任制が影響していることが考えられます。

子どもたちがそれぞれの教科の特性や楽しさを実感し、意欲的に学習に取り組んでいけるよう、私たちもより一層教科担任制を生かして、教材研究に取り組んでいきたいと思っております。